【広報文化財コラム「一宮の歴史特集」】㊾

令和5年8月号

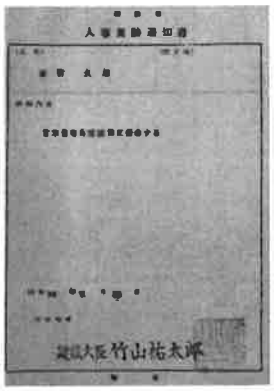
一宮町の歴史特集 ―加納久朗没後60年―
ワレワレハ千葉県ノタメ
千葉県ハ日本ノタメ　日本ハ世界ノタメ

【第5回 日本住宅公団総裁・加納久朗】

戦時中の空襲や強制疎開により、戦後日本の住宅事情は、危機的状況に陥っていました。加えて、職を求めて東京近郊へ人口が集中する現象も発生し、特に都市近郊では住宅不足が顕在化していました。昭和29年(1954)当時は全国で約280万戸の住宅が不足していたといいます。

このような状況の中、同年12月に鳩山一郎内閣が成立します。鳩山内閣では政府の施策として、民間資金も導入して広域的に住宅建設を進めていくことを決定、昭和30年7月に特殊法人日本住宅公団が創設されます。この初代総裁に就任したのが加納久朗であり、彼を推薦したのは鳩山首相の盟友で自由民主党の総務会長・三木武吉(1884～1956)だったといいます。

久朗は昭和34年(1959)に総裁を退任するまでの4年間で、日本の住宅事情を大きく好転させたと評価されています。久朗の総裁時代の住宅公団が建設した住宅には、ダイニング・キッチン、ステンレス流し、シリンダー錠、水洗トイレ、屋内風呂、スチールサッシなどが取り入れられました。これらは当時の日本ではあまり取り入れられておらず、住宅公団が積極的に採用を進めたことにより、普及していきました。その後の住形式に大変革をもたらすことになりますが、設計に携わった人々もさることながら、総裁・久朗の人間性も、その一因といえるでしょう。



▲公団総裁の任命書
(昭和30年、町教委所蔵)

(学芸員　江澤一樹)

【問合せ】教育課　☎(42)1416

【広報文化財コラム「一宮の歴史特集」】㊿

令和5年9月号

一宮町の歴史特集 ―加納久朗没後60年―
ワレワレハ千葉県ノタメ
千葉県ハ日本ノタメ　日本ハ世界ノタメ

【第6回「アイデアマン知事」誕生】

昭和34年(1959)6月、久朗は任期満了に伴い、日本住宅公団総裁を退任しました。

退任した久朗は昭和37年(1962)10月に実施された千葉県知事選挙に立候補します。前知事の柴田等らが出馬する中、久朗は自由民主党の公認を受けて出馬、見事当選を果たします。時に齢76歳。久朗は「一期しかやらない。しかし仕事は二期分も、三期分もやる」とし、積極的に県政に取り組みます。

例をあげると県庁内の課長席を課の入口に移動させて、県民に直接接触させる、県庁職員の「土曜日休暇制」を導入する(当時の自治庁の制止により中止)、県内各地を知事や県庁の幹部職員が巡回する「移動県庁」を実施する、などなど…。斬新な政策を行い、「アイデアマン知事」として、各界に話題を提供します。

ところが超過密スケジュールもあり、体調を崩した久朗は、昭和38年(1963)2月21日、入院先の聖路加病院(東京都中央区)にて、心筋梗塞のため亡くなります。知事の在任期間はわずか111日間でした。

知事の在任期間は3ヶ月強であり、加納県政の評価は非常に難しいところがあります。しかし様々な点で大きな影響を与えたのは間違いないでしょう。

▲千葉県知事当選証書
(町教育委員会所蔵)

(学芸員　江澤一樹)

【問合せ】教育課　☎(42)1416